

合否を決めるのは準備



取得した資格：一級建築士
資格取得年度：令和2年度

にしむらりょうた*
西村良太*

1. 受験の動機、経緯

私は、中学生の頃から建築に興味を持ち始め、一級建築士取得は、漠然とした将来の目標の一つであり、単純にかっこいいなと思っていました。就職した当初は、公務員という仕事柄を考えると、必須の資格ではないと考えていましたが、設計事務所や施工者の方々と関わるようになり、技術力の差を痛感し、取得に向けての意志も強くなっていきました。また、同じ目標を持った先輩や同僚に囲まれ、良い刺激をもらい、2年目の春頃から資格取得を明確な目標とし、本格的に試験勉強を始めました。

本稿では、どのような準備をして試験に臨んだか、資格を取得してどのような変化があったのかについて書かせて頂きます。これから受験を考えられている方々にとって、少しでも参考になりましたら幸いです。

2. 資格取得に向けた準備

～モチベーションの維持～

私は学生の頃から、勉強がとにかく嫌いで苦手でした。社会人生活は楽しくて仕方がなく、誘惑も多いためモチベーションの維持が最初の課題でした。昔から勉強を継続することが苦手でしたので、難しい目標は設定せず、最低限のノルマを決めて勉強に取り組みました。学科試験の勉強では、どんなに疲れていても、「法規の問題を5問解く」という最低

限のノルマを課していました。

また、週末の半日は趣味であるサッカーに行き、汗を流して気分をリフレッシュしていました。また寝る前の30分は自由時間と決めて、好きな音楽や動画を観て、無理をしすぎないように心がけていました。時に自分にご褒美をあげるなどして、なんとか試験当日までモチベーションを維持することができました。

～学科試験までの準備～

学科試験の対策は、基本的に過去問を繰り返し解くことでした。問題文と答えも覚えてしまうくらい解いたら、違う参考書に切り替えていました。平日の勉強は、朝起きてから出勤時間までの90分、昼休み、帰ってから就寝までの時間を利用していました。ただ、0時以降は勉強しないと決めていました。ちょっとしたスキマ時間は、スマホのアプリやWEBサイトで問題を解いていました。

また、受験者に向けたYouTubeやSNSの投稿をみて、勉強方法に取り入れたり、モチベーションの維持に役立てたりしました。気づくとスマホを見て勉強をサボることが多かったため、必要のないアプリは消して、試験用のアプリやサイトを開く習慣をつけました。学科試験は5科目それぞれに合格基準点があるため、苦手分野をつくらないように心がけました。何度も間違えてしまった問題や、苦手な分

*国土交通省 中国地方整備局 営繕部 保全指導・監督室

野だけをまとめたノートを作成し、何度も見返すようにしました。

～製図試験までの準備～

製図試験の準備は、必要な知識の整理から始めました。製図試験では、法規のミスがあると一発で不合格になってしまうからです。構造計画や設備計画、防火区画の考え方などを整理し、スキマ時間を生かして暗記しました。製図試験では、記述問題もあるため、少なからず知識の整理と暗記が必要です。

製図試験で特に気をつけたことは二つです。

一つ目は、「時間配分」です。私は、エスキス2時間、記述1時間、製図2.5時間、見直し1時間という目標で練習をしていました。エスキスは課題文の読み込みを含めると、最低2時間は必要であったため、可能な限り製図時間を短縮することを工夫しました。平行定規の使用は最低限とし、柱割りと主要な壁を書き終えると、小さいものさしとフリーハンドを駆使して書き上げるようにしていました。使用する道具は最小限にして、無駄な動きを減らすように心がけました。階段やEV、トイレなどはパターン毎に個別で練習し、プランに合わせて悩むことなく配置できるようにしました。

二つ目は、「見直し」です。段階的に見直しの時間をとりました。エスキス後に1回、製図の途中で1回、そして最終確認と、計3回の見直しの時間をとっていました。製図試験では、課題文の条件を満たしていないと不合格になってしまいます。課題文の条件の読み落としや、法規のミスをしていないか等、「見直し」を徹底することは合格するために必要不可欠であると思います。

3. 完璧な準備を!!

私は製図試験当日、試験開始前に受験票と学科試

験の合格通知書を間違えて持ってきていたことに気づいて、とても焦ったことを覚えています。受験票は会場で再発行することができ、少し遅れてスタートすることができました。これから試験を受けられる方は受験要項をしっかりと読んで、忘れ物等がないように完璧な準備をして頂ければと思います。万が一、受験票を忘れてしまった方は本稿を思い出してください。なんとかなります！また、試験直前に見直していた建築作品の問題が幸運にも本番で出題され、得点に繋がりましたので、直前まで準備を怠らないことが大事だと思いました。

4. 資格を取得して

資格を取得してから2年程経ちますが、仕事ではまだまだ分からないことだらけです。しかし、試験勉強を通して少なからず自分の成長と自信に繋がりました。仕事の中でも自信をもって発言できる機会が多くなった気がしています。少しずつではありますが、建築に対する理解も深まってきていると感じています。

5. おわりに

働きながら試験勉強に取り組むことはとても簡単なことではないと実感しました。受験される方それぞれの生活スタイルがあり、時間の確保が難しかったり、当日何かしらのハプニングが起こったりするかもしれません。でも、どうか諦めずに頑張ってください。

最後に、一級建築士を取得することができたのは、周りの方々のサポートがあったからだと思っています。サポートしてくださった皆様に改めてこの場をお借りして感謝申し上げます。

【著者紹介】 西村 良太 (にしむら りょうた)

平成7年生まれ。広島工業大学建築工学科卒。平成30年国土交通省中国地方整備局入省。営繕部整備課意匠係にて設計業務を担当。令和2年から営繕部保全指導・監督室にて保全指導及び工事監理等の職務に従事。